



えんどう
遠藤 ほのかさん (16歳)
金ケ崎高等学校在籍

岩手県立金ケ崎高等学校2年生。高校に進学してから、陸上の道へ進み、2年目にして女子やり投げでインターハイ(全国高等学校総合体育大会)へ出場。週2、3回で森山総合公園陸上競技場で練習を行う。

アドバイスをくれた全ての人への 想いをこの一投に



自己ベストの更新を目指すほのかさん

岩手県立金ケ崎高等学校で平成28年女子ソフトテニスで出場以来、9年ぶりのインターハイに出場を決めたほのかさん。「どんな場面でも平常心を保ち、この一投で決めるんだという強い思いで臨んでいます」と力強く話す。

金ケ崎高等学校に進学し、先輩からの勧誘を受け、陸上競技をスタート。中学校までは野球部に所属しており、肩の強さを活かして、やり投げを選択した。

現在は特定の指導者がおらず、いろいろな人達からのアドバイスを受け、日々の練習に励んでいる。「指導者が多いことでいろいろな面で気にかけてもらえるのは、自分にとってはプラスになっている」と話すほのかさん。肩を酷使するため、森山総合公園での投てきの練習と学校でのウエイトトレーニングを行い、フランスの良い筋肉づくりも欠かさない。休息日も自分を陸上へ導いてくれた先輩のVTRを繰り返し確認してフォームの研究を行う。

6月に行われた第80回東北高等学校陸上競技大会では、6位までに入賞すると、全国大会に進出できる。2投目までは自分の思った結果が出せずにいたが、最後の3投目で自己ベストを更新し、見事逆転で6位に入賞。悲願の全国大会への切符を掴み取った。「最後はこれまでの自分を支えてくれた人に恩返ししたいんだ!そう強く願った気持ちが出たと思います」と笑みを浮かべる。

インターハイ陸上の女子やり投げは7月28日に広島市で実施され、全力を込めた一投は、美しい放物線を描いた。

※やり投げ・・・「助走→クロスステップ→投げ動作」を一連とする投てき競技。

広報日記



今月は町立幼稚園の楽しいイベントにご招待いただき、たくさんのかわいい笑顔を撮影できました。関係者の皆様本当にありがとうございました。南方幼稚園の子どもたちはダンスが終わった後も「金ケ崎が大好き」と満面の笑みで嬉しそうに話しており、六原幼稚園の子どもたちは星空に負けないくらいキラキラ輝いていた。たくさんさんの元気をわけてもらい、一層取材にも力が入っている。

クマの出没も多くなり、取材に行く先々で今日は「ここで見かけた」などのお話されることが増えてきた。取材の際はいろいろなバックにクマ鈴を着け、万全の装備で行こうとすると、チャグチャグ馬コみたいだと言われてしまった。しかし、見ためよりも安全重視でいきたいと思った今年の夏である。(千葉)

人口と世帯		7月31日現在	
		※()内は前月比	
人口	15,101人	(△ 3)	
男	7,795人	(△ 3)	
女	7,306人	(± 0)	
世帯数	6,635世帯	(+ 15)	